

閉会のことば

岩切成郎（鹿児島大学南方海城研究センター長）

センター長の岩切でございます。本日、パプア・ニューギニアの生活と栄養に関するシンポジウムを開催いたしましたところ、両先生には遠路わざわざ御来演いただきまして、厚く御礼申し上げます。またきょうは、先生方だけでなく、色々なほかの大学とか研究機関の方もお見えになっておりまして、きょうのシンポジウムが非常に充実したものになったと喜こんでおります。私はほかの用事で最初から出席できませんでしたが、途中、センターの方から、非常に密度の濃い、実のつまったお話し及び質疑をくり広げておりますという報告をいただきまして、大変うれしく存じております。実は我々の方のセンターで来年度*パプア・ニューギニアに約40名の調査隊で総合的な調査をば実施したいという計画を持っておりまして、これはセンターの第3年次の大事なプロジェクトになっております。こういう大仕掛けな調査隊がスムーズに入国許可を得られ、調査できるかどうか非常に問題は残っておりますけれども、そういう予定で準備しておりますので、きょうのお話しは我々人文、社会、自然、特に生態を中心に勉強する人達にとって非常に有益であり、またきょうの話しが今度の調査隊の仕事に十分つながっていくものと存じております。そういう意味で今後ともどうぞよろしく御指導いただけたらありがたいと思います。どうも先生方にはありがとうございました。また出席の皆さん、今申し上げた様な次第でありますので、今後とも、またどうぞこういうシンポジウム及び研究会に御協力いただいて、さらに勉強させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

（拍手）

司会：本日はどうもありがとうございました。

*編者注：南方海城研究センターのパプア・ニューギニア調査隊派遣計画は、希望どおり昭和58年10月下旬～12月上旬の約6週間にわたって成功裡に実現できたが、このシンポジウムは昭和58年2月23日に行なわれたため、学年及び会計年度上は来年度ということになる。